

第 23 回 愛媛形成外科研修会

抄 録 集

日 時 平成 21 年 6 月 27 日 (土) 17 時 30 分～
場 所 独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター
3 階 研修室
(松山市南梅本町甲 160 Tel : 089-999-1111)
当番世話人 四国がんセンター 形成外科 河村 進

第 23 回 愛媛形成外科研修会

研修会

1. 受付は当日17 時 00 分より会場で行います。
お車でお越しの方は、誠に申し訳ございませんが一律 100 円の駐車料金がかかります。
2. 参加費は 1000 円を申し受けます。
3. 演者で、まだ研修会会員でない先生は、入会の手続きをお取り下さい。
4. 討論時間は、一題あたり 5 分を予定しております。
5. 発表形式は Windows Power Point 2003 による PC プレゼンテーションでお願いいたします。(当日は USB メモリーあるいは PC 本体を持参して下さい。)

研修会総会

19 時 00 分から同会場にて行います。

連絡先

〒791-0280 愛媛県松山市南梅本町甲 160

四国がんセンター 形成外科 河村 進

E-mail: skawamura@shikoku-cc.go.jp

TEL: 089-999-1111

FAX: 089-999-1100

会歴

会期	世話人	会場	日時	参加者
第1回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	松山成人病センター	平成10年7月4日	15名
第2回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	愛媛県医師会研修所	平成10年12月5日	17名
第3回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	松山成人病センター	平成11年6月19日	20名
第4回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成11年11月27日	19名
第5回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成12年6月24日	17名
第6回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成12年12月9日	20名
第7回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年6月23日	23名
第8回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成13年12月8日	23名
第9回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成14年6月8日	27名
第10回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成14年12月14日	27名
第11回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成15年6月28日	25名
第12回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成15年12月13日	25名
第13回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年6月26日	26名
第14回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成16年12月4日	29名
第15回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 会議室	平成17年6月18日	31名
第16回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 会議室	平成17年12月10日	35名
第17回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成18年6月24日	31名
第18回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成18年12月9日	26名
第19回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年6月16日	37名
第20回	小林 一夫 (愛媛県立中央病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成19年12月15日	30名
第21回	中岡 啓喜 (愛媛大学医学部皮膚科 形成外科診療班)	四国がんセンター 研修室	平成20年6月14日	30名
第22回	庄野 佳孝 (松山赤十字病院 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成20年12月6日	30名

第23回	河村 進 (四国がんセンター 形成外科)	四国がんセンター 研修室	平成21年6月27日	名
------	-------------------------	-----------------	------------	---

独立行政法人 国立病院機構

四国がんセンター

愛媛県松山市南梅本町甲 160

(TEL : 089 - 999 - 1111)

最寄り駅：伊予鉄横河原線 梅本駅下車 徒歩 5 分

伊予鉄横河原線 牛湍団地前駅下車 徒歩 6 分



1. 心臓脱の一例

愛媛大学医学部附属病院皮膚科（形成外科診療班）

○松本健吾、森秀樹、青木恵美、原田雅奈、山下昌宏、見崎麻由、中岡啓喜
(5分)

10ヵ月女児、心臓脱のため出生直後に胸壁再建手術を受けた。その後、2度の心臓手術後に心臓被覆部に瘻孔が発生、ゴアテックスシートが露出したため当科を紹介された。腹直筋穿通枝皮弁による修復を行ったが治癒にはいたっていない。心臓脱はきわめてまれな疾患で、種々の合併奇形を有することが多く予後は不良である。本症につき、文献的考察を加え報告する。

2. 人工内耳露出の再建例

愛媛大学医学部附属病院皮膚科（形成外科診療班）

○見崎麻由、森秀樹、青木恵美、原田雅奈、山下昌宏、松本健吾、中岡啓喜
(5分)

症例1：4歳、女性。人工内耳埋め込み後12ヵ月より両中耳炎をきたし、術後15ヵ月時に人工内耳露出。術後18ヵ月時、人工内耳摘出し **temporoparietal flap** で再建。
症例2：53歳、男性。人工内耳埋め込み後3ヵ月より細菌感染を反復し術後10ヵ月時に人工内耳露出。術後14ヵ月時に、人工内耳温存し **temporoparietal flap** で再建。
人工内耳の再建について文献的考察を加え報告する。

3. 小耳症耳介形成術後にMRSA感染を生じた1例

愛媛県立中央病院 形成外科

小林一夫、中川浩志、徳永和代、尾崎絵美、李 龍二

(5分)

10歳男児で、小耳症のため自家軟骨フレームを永田法により作成した。手術時間は7時間で、術翌日、嘔吐後に無気肺・肺炎が生じ再挿管され、軽快したため4日目に抜管された。しかし術後9日目に、WBC11600となり、耳介縫合部より膿瘍の流出があり、MRSAと判明した。抗菌剤投与・洗浄を繰り返したが、反応しないため術後20日目に全麻下にhelixとconcha部の皮膚縫合と持続還流装置を作成した。その結果、35病日目に菌の陰性が3回確認され、退院となった。形態はやはりhelixの高さの低下が見られる。次回、耳起しが予定されているが、helixに高さを作成する方法につきご意見を伺いたい。

4. 小児広範囲熱傷の疼痛対策としてミダゾラム、フェンタニル使用後に発症した離脱症候群の1例

愛媛県立中央病院 形成外科 1)愛媛県立中央病院 麻酔科 2)

○中川浩志 1) 小林一夫 1) 徳永和代 1) 尾崎絵美 1) 李龍二 1) 池宗啓蔵 2)

(5分)

症例は5歳男児。わかした直後の浴槽の天板より転落し、両下腿1/2より末梢、頭部の一部を除く全身にSDB~DDB、約85%の熱傷を受傷した。当初よりミダゾラム、フェンタニルで鎮静、疼痛のコントロールをし、ICUで呼吸管理を行った。第13病日より人工呼吸器からの離脱を開始したが、左右の首振り、振戦等の離脱症状が2日間持続した。その後、離脱症状は沈静化し、第15病日に抜管することができた。

この離脱症候群について文献的考察を加え報告する。

Section 2 (18:05~18:40)

座長 愛媛大学皮膚科・形成外科 青木恵美先生

5. nodular cystic fat necrosis の一例

愛媛労災病院形成外科

○黒住 望、 加藤嘉秀

(5分)

nodular cystic fat necrosis は、壊死した脂肪の小腫瘍が触ると皮下で移動するのが特徴である。今回経験した症例は左下腿皮下脛骨前面に同様の腫瘍を認め手術にて摘出した。珍しい症例と思われるので症例を供覧する。

6. Pleomorphic lipoma の1例

愛媛県立中央病院 1) 山口県立総合医療センター 2)

○尾崎絵美 1) 小林一夫 1) 中川浩志 1) 徳永和代 1) 李龍二 1) 村上隆一 2)

(5分)

54歳女性。6年前から左頬部に腫瘍を自覚。2004年4月形成外科受診。初診時5cm大の腫瘍を認め、MRI検査では境界不明瞭で深部は頬粘膜まで及んでおり悪性の可能性も示された。全身麻酔下で摘出し、病理検査でPleomorphic lipomaの診断を得た。2008年8月同部に腫瘍が出現、再度摘出した。前回と同様の病理所見を認めPleomorphic lipomaの再発と考えられた。Pleomorphic lipomaは比較的稀な腫瘍であり若干の考察を加え報告する

7. 頸部に発生した Mucinous cystadenoma の 1 例

愛媛県立中央病院 1) 山口県立総合医療センター 2)

○李龍二 1)、小林一夫 1)、中川浩志 1)、徳永和代 1)、尾崎絵美 1)、村上隆一 2)
(3分)

症例は 89 歳、男性。10 年程前から左頸部の腫瘤を認めていたが、無治療で長らく放置していた。2 年前から増大傾向を認めたため当科を受診。CT・MRI では質的診断は困難であったが、臨床経過から悪性腫瘍の可能性も考慮し、全身麻酔下で一塊として切除した。術後病理診断において Mucinous cystadenoma と判明。CT・MRI による術前診断は難しく、また、頸部発生例が稀な疾患であったため報告する。

8. 良性腫瘍として摘出した会陰部の巨大高分化型脂肪肉腫の 1 例

四国がんセンター形成外科

○河村進、鈴木良典 (5分)

症例は 58 歳男性。数年前より会陰部に腫瘤を認め近医で脂肪腫として follow されていた。膀胱がんで当院に入院時、同部の加療目的に当科紹介となった。右会陰部から臀部にかけて約 12cm 大の軟らかい腫瘤を触知した。MRI で血管筋脂肪腫などの良性腫瘍が疑われ、生検で fibrolipoma と診断したため摘出術を行った。永久標本で行った病理診断では well differentiated liposarcoma の診断であった。

愛媛形成外科研修会総会（18：40～19：00）

1. 会計報告
2. 次回研修会の日程
3. その他